意欲的に活動する子どもを育てるための工夫

――学級における係活動を通して――

目　　次

Ⅰ　テーマ設定の理由……45
Ⅱ　特別活動の基本的な考え方……46
　1.　本校教育目標と特別活動との関連……46
　2.　特別活動における係活動の位置づけ……47
　3.　特別活動における係活動の特性……47
Ⅲ　活動意欲を育てるための基本的な考え……49
　1.　子どもの自主性と特別活動……49
　2.　子どもの社会的発達のとらえ方……50
　3.　意欲を育てるよりよい学級集団づくり……50
Ⅳ　係活動を活発にするための指導と工夫……53
　1.　組織と構成……53
　2.　係活動の種類……54
　3.　係活動を継続させる工夫……54
　4.　係活動過程の確立の工夫……56
　5.　話し合い活動……57
　6.　子どもの活動を活発にするための環境・評価の方法……59
Ⅴ　実践，展開例……63
　1.　アンケートの分析と考察……63
　2.　実践・展開例……64
Ⅵ　研究の成果と反省……66
　1.　今後のまとめ……66
　2.　今後の課題として……66
　おわりに……66
　参考文献……67

浦添市立前田小学校

比　嘉　律　子

意欲的に活動する子どもを育てるための工夫
――学級における係活動を通して――

浦添市立前田小学校　比嘉　律子

Ⅰ　テーマ設定理由

特別活動は，望ましい集団活動を通して「為すことによって学ぶ」教育活動である，それぞれの集団に所属する一人ひとりの児童は，発達段階や集団の特性に応じて与えられた地位や役割により集団の一員としての自覚を深めるとともに意欲をもって責任を果たすことが必要であるといわれている。

子どもたちにとって，学校生活が生きがいと感じるのは，学級において，自分の欲求が満たされ，自分の行動が学級の仲間に認められた時であろう。そして，毎日の学校生活に期待をかけ，「学級のために何かやりたい」，「お友達に認められたい」，「先生にほめられ，認められたい」と目を輝かせて登校してくるものと思われる。教師も児童一人ひとりの子どもがもっている基本的な欲求を満たし，個性を見つけ互いに励まし合い，それを伸ばし生き生きとした創意工夫のある学級づくりをめざし，毎日の生活を楽しく張りのあるものにしていきたいと考えるのである。

これまでの学級活動の中で係活動を通してどのような活動をしていたのかふり返ってみると，

① 学期の始めは，新しい仕事（係・当番）を，意欲的に計画を立て実行していくが，しばらくすると，同じパターンのくり返しになり，或は，マンネリ化しやすい。

② 真面目に活動する子もいるが，学級全体で協力することに欠け，自己中心的でわがままな行動が目立ち，係の仕事を忘れたり，怠ける人も多くなり，だんだんと責任感が薄れる

③ 面倒なもの，時間のかかる仕事には興味を示さず，男女別々の小集団をつくり，学級全体に活気がなくなる。

④ 遊び，ゲーム，ボール運動には夢中になるが，学級の係活動には興味を示さず消極的な活動になったりする。

以上のことから，学級のそれぞれの係活動に対して学期がすすむにつれ意欲がなくなり，責任感もなくなる。又，教師が指示しないと活動していかない状態になったりする。

これらの課題の多くは，係活動の組織・運営上の基本的事項がおさえられていないことに起因するもので，児童の自発的，実践的活動を不活発にさせている要因となっている。

これらの現状をふまえ，学級の児童の希望や願いを生かし，係活動に関心と意欲をもって実践活動を展開していけるように，教師が見通しを立てて係活動の適切な指導のあり方を工夫することにより，児童が自発的・実践的活動ができ意欲的な子に育つのではなかろうかと考え，本テーマを設定した。

Ⅱ　特別活動の基本的な考え

1.　本校教育目標と特別活動との関連

＜　本校の教育目標　＞

- 思いやりのある子
- たくましい子
- 考える子
- やりぬく子

みどり豊かな学校づくりを進める中で，心身共に健康で，「自ら学ぶ」ことを指標とし，思いやりのある豊かな心を持ちたくましく生きる子どもを育成する。

＜特別活動との関連＞

- 思いやりを持ち，積極的に実践できる態度。
- 協力してよりよい生活を築こうとする，ねばり強い実践的態度。
- 学校の諸問題を見つけその解決のために力を合わせて努力する態度。
- 目的達成のため，責任感をもってやりぬく態度。

≪　特別活動の目標　≫

望ましい集団活動を通して

- 心身の調和のとれた発達を図る。
- 個性を伸長する。
- 集団の一員としての自覚を深める。
- 協力してよりよい生活を築こうとする自主的，実践的な態度を育てる。

＜　基本的な性格　＞

- 集団の一員として，為すことによって学ぶ活動を通して，自主的，実践的な態度を身につける活動である。
- 教師と児童及び児童相互の人間的な触れ合いを基盤とする活動である。
- 児童の個性や能力伸長，協力の精神などの育成を図る活動である。
- 各教科や道徳などの学習に対して興味や関心を高める活動である。
- 知，徳，体の調和のとれた豊かな人間性を養う活動である。

＜　学級活動の特質　＞

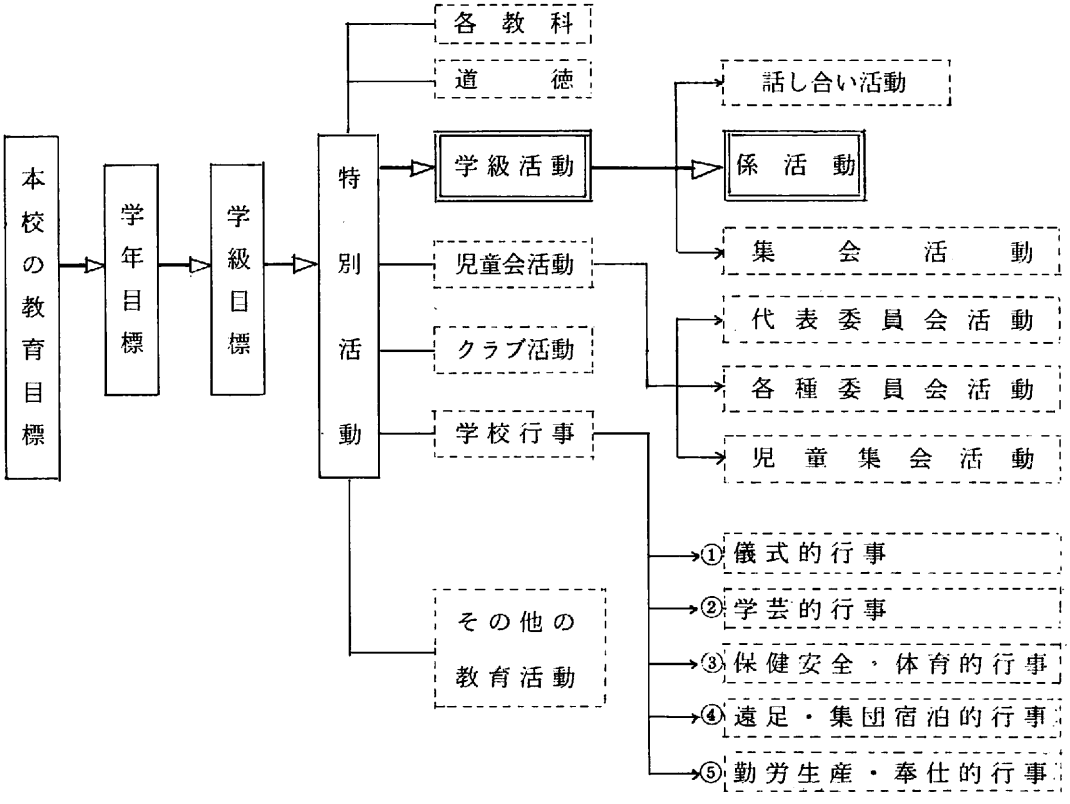
学級活動においては，学級を単位として，学級生活の充実と向上を図り，健全な生活態度の育成に資する活動を行うこと。

＜　学級活動の活動内容　＞

(1)　学級や学校の生活の充実と向上に関すること。
　学級や学校における生活上の諸問題の解決　学級内の仕事の分担処理など。

(2)　日常の生活や学習への適応及び健康や安全に関すること。
　不安や悩みの解消，基本的な生活習慣の形成，望ましい人間関係の育成，意欲的な学習態度の形成，学校図書館の利用や情報の適切な活用，健康で安全な生活態度の形成，学校給食など。

2. 特別活動における係活動の位置づけ



3. 特別活動における係活動の特性

(1) 係活動のねらい

係活動は，学級の児童が，学級内の仕事を分担処理するために，幾つかの係に分かれて自主的に行う活動であり，児童の力で学級生活を豊かにすることをねらいとしている。

(2) 係活動の意義

① 係活動は，楽しい学級づくりをめざしての児童生徒の必要感から生まれ，児童の興味，関心が基底となり児童の自由な発想による自治的，実践的活動が保障されるものである。

② 活動内容，運営の仕事は児童に任され，創意工夫される活動である。

③ 学級目標を係活動の場に生かすために，計画，実践，反省，評価していく中で責任感が生まれ，学級の一員としての存在感や連帯感を深めるよりよい機会である。

④ 係活動の指導計画（ねらい，組織，運営）に焦点をおいた係活動を通して直接的に学級の経営に参加し，協力性，友情などの社会性が高められ，同時と自治的，実践的意欲が高められる。

(3) 係活動の特質

係活動の特質は，集団活動，自主的活動，実践活動にその基本がおかれている。係活動は，学級生活の中で児童の意欲と必要感から生まれるものであり，全員の承認によって，設置され活動の成果は，ただちに学級の子どもたちの利益となり反映するものである。

また，創意工夫と計画性によって，活動の内容を拡張，充実できるものである。

当番活動は，学級経営上，児童の意志とは関係なくやらなければならない管理的内容をもっている。

(4) 係活動と当番活動との相違点

＜係　活　動＞	＜当　番　活　動＞
・ 創造性と集団に対する指導性のあるもの。 ・ その仕事はやらなくてもだれも困らない。 ・ 仕事の内容を自由に変えることができ，創意工夫を十分に発揮することができる。 ・ 創意に富んだ活動を奨励し，すぐれたアイデァや創造性のある活動を取り上げる。 ・ 児童が自分たちで見つけなければ仕事がない。 ・ その仕事を廃止することができる。 ・ 生活を楽しく改善することに重点がある。 ・ 児童の自主的計画に任されている活動である。 ・ 係は，児童たちのものであり，児童たち自身から生まれてくるものであって，生き生きと活動できるものである。 ・ 学級生活をより楽しく，より豊かに発展させていくための実践活動である。	・ 実務的，管理的なもの ・ その仕事をだれかがやらなければみんなの生活に困る。 ・ 仕事の内容が決まっており工夫する余地が少なく作業が単純である。 ・ 当番活動を細分化し，役割分担をはっきりさせ，自分の仕事をはっきりつかませる。 ・ 児童の創意や工夫を働かす余地の少ない活動である。 ・ 教師も可能な限り一緒に活動し，その都度，指導助言し，小さな事でも認め，励ますように努力する。 ・ 適宜，編成かえして，グループの空気を新しくする。 ・ 活動をいつも評価してやり児童相互にも評価の機会を十分に与えてやる。 ・ 学級生活を維持することに重点がある。 ・ 毎日あるいは，定期的に仕事がある。 ・ 学校生活の維持管理の色彩の濃い活動である。 ・ 教師の意図に基づいて指示による部分の大きい活動である。 ・ 当番活動は，教師が学級運営上欠くことができない仕事で，本来教師自身がやらねばならない仕事も数多く含まれている。

＜共　通　点＞

▲学級内の仕事を分担し，遂行していく実践活動である。

▲みんなで力を合わせてやらなければならない集団活動である。

▲集団と個との相互作用のなかから自主性，社会性，判断力，行動力が育つ。

当番活動を通して，共同生活の仕組みや，集団における生活習慣を身につけさせることができる。集団で仕事を進めることを通して，協力や協同の大切さに気づかせ，奉仕や勤労の尊さを自覚させることができる。

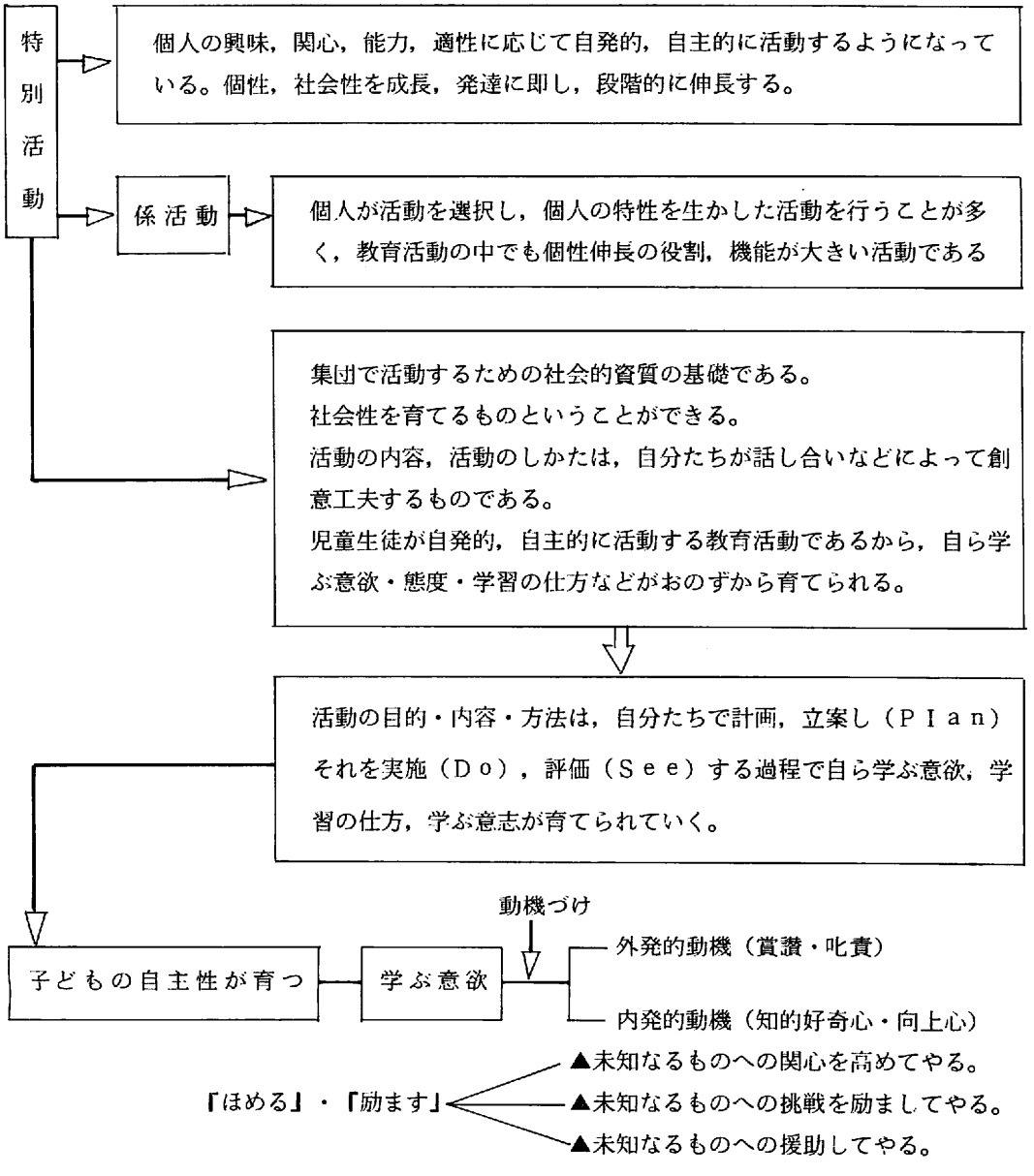
係活動と当番活動との区別を明確にし，係は，児童たちのものであり児童たち自身から

生まれてくるものであって，そして，生き生きと活動するものである。

両者の特質をふまえて，発達段階と学級の実態を考え合わせながら，当番の仕事と係の仕事との違いに気づかせていくような教師の指導助言が大切であり，この意義を深く認識し，はっきりとした理念をもって，指導に望むことが，係活動を発展させる基本である。

Ⅲ　活動意欲を育てるための基本的な考え

1，子どもの自主性と特別活動



2. 子どもの社会的発達のとらえ方

子どもは，学校生活の中で友達と教師，学習活動とのかかわりを通して自分自身を築いていく，このように，自分とまわりとのかかわり方によって育つものが社会的発達である。

(1) 集団活動における発達的特質

低学年・・一人ひとりの願いを係や当番活動の役割に生かす。
一人一役となるように活動の種類を多様化する。

中学年・・グループ活動や係の役割分担を見直すことを通して相手の良さや自分たちの約束を守ったり実行したりするような活動体験を積ませる。

高学年・・活動内容に対して自分がどのように関与するかを意識させ，その過程で話し合う活動を十分に取り入れる。また，個人的な悩みや感情の表出を受容し，何を，どうしたいのか，具体的に聞く。

(2) 実際の活動を通して，対人関係の把握

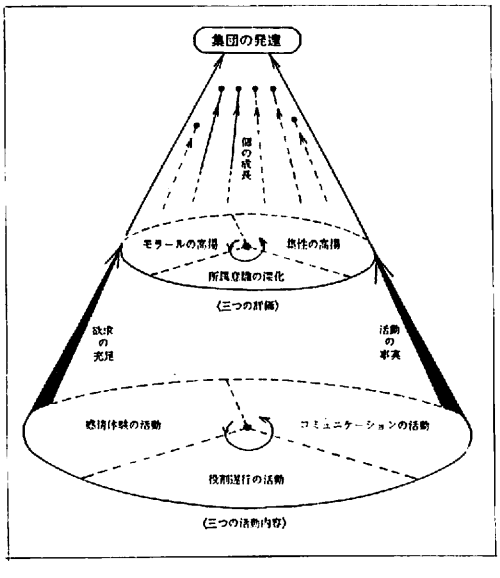
子どもは，実際の活動を体験しながら，相手（友達・教師）と，どのようにかかわり，どんな気もちをもったかを分析する必要がある。又，対人関係のあり方を教師が知ることが，一人ひとりに対する助言の効果を高め，社会性の発達を促すことになるであろう。

係活動を活発化し，継続していくには，教師のきめ細かな指導工夫が必要であり，それにより，それぞれの係の取り組む姿勢も変わっていくのである。

調査カードを作成し記入されていく，この結果を係のしごとや指導のねらいごとなどに分類して，役割体験による社会的な発達がどう身につくか具体的に把握する。

3. 意欲を育てるよりよい学級集団づくり

(1) 集団活動は主として三つの「活動内容」をもち，活動を通して，子どもの心情的な高まり（楽しい，うれしい，もう一度活動したい等）が出る。



子どもといっしょにより望ましい学級生活をつくりあげるためには，学級目標の具現化をめざす活動プランづくりがたいせつである。

一人ひとりの子どもは，集団活動を通して，人間の成長に欠かすことができない基本的な欲求としての「所属」と「承認」という二つの大きな欲求を充足し，健全な人格を形成していくことができると思う。

子どもは，自分の心理的な欲求を満たしつつ，個性，能力を発揮しながら安心して学校生活を過ごしていくものだと思われる。

集団活動は，共通の目標達成のために，集団成員が様々な役割を分担し，相互の役割を理解し合いながら，自分の責任を果たすことによって向上し成長していくものと思う。

担任教師は，子どもが自らの力で学級生活に適応していけるように場面設定したり，指導の工夫を図ったりする。

(2) 集団に適応する場面の設定。　　（適応への欲求）

① 学級の財産づくり　（連帯感・所属感）

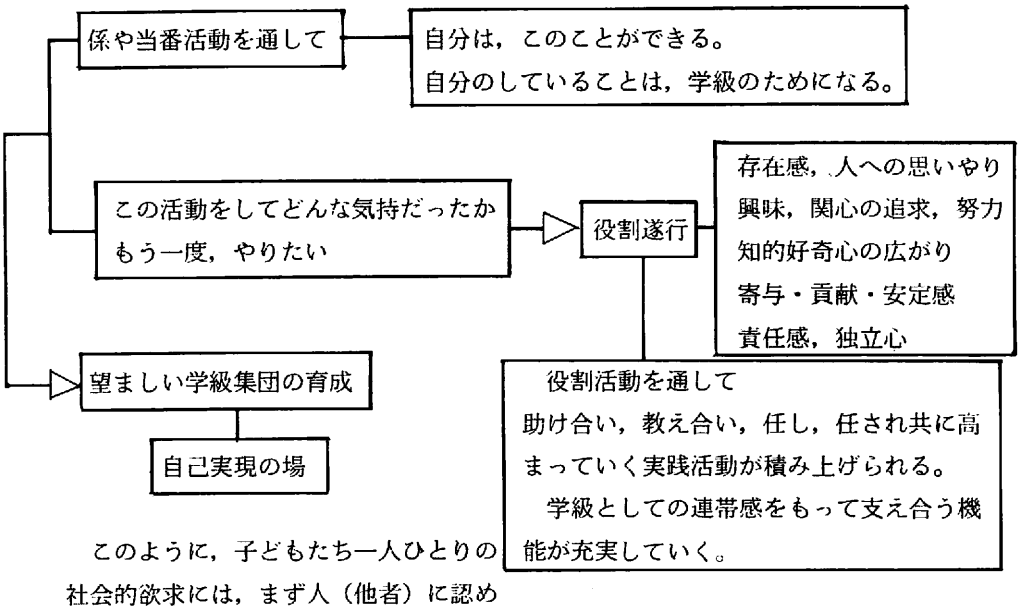
学級の財産を見つけさせながら自分と学級の存在を語らせ，どのような形で楽しさを表現できるかみとどけるようにする。

② 個に楽しい活動を感得させる。

子ども一人ひとりに自分は，この学級が楽しくなるためにはどんなことができたが，又，その活動によってどんな楽しさを味わうことができたかと問いかける。

学年の発達や個のとらえ方，感じ方に合わせて，学級活動による楽しさをその子なりに感じさせてあげるようにする。

③ 役割，行動の場をつくる。



このように，子どもたち一人ひとりの社会的欲求には，まず人（他者）に認められたいという社会的な承認の欲求を基盤にさまざまな欲求（願い）がこめられている

一つの役割を得ること，一つの「役割行動」を通して子どもたち自身が生きがいをもち，学校生活に喜びと充実感をもっていくこと，個々の児童生徒が「学校で勉強していると楽しい，学級の仲間と一緒にいると楽しいと思えるような自己実現できるように，学級の雰囲気づくりは大切である。

一人ひとりが，何にどう関与したかをみる活動過程の中で，自分がいつ，何に，どうかかわったをふり返らせたい。（カード記入，作文，口答で発表）

自分の意見や考えをもち，みんなに素直に理解され未熟な意見であっても大事にされる環境が必要である，友だちに正確に「伝える」ことも友だちに理解してもらえたという喜びを感得させることが意欲形成につながる。

④ 共に為す喜びを味わわせる。

どんな子どもでも最後までやり抜こうという成就の欲求をもっており，その成功感は

次の学習への意欲を喚越させる。

⑤ 担任教師とのかかわり方

子どもの活動に教師がどうかかわったかで楽しさの表出の仕方が異なる。子どもの活動を受容し，ほめて励ますことがあると次の活動への意欲を伴った楽しさになる。教師と子どもが共感的で思いやりがあり，信頼と感動の満ちた学習集団作りを図る。何でも言えるそれを認める相互信頼的雰囲気を確立する。

⑥ 子どもの心に耳を傾ける。

子どもの感情を聞くような対応であれば楽しさのエネルギーが蓄積される。子どもは活動の事実を教師に伝えようとする。教師は成就された事実と共にその時の感情（心）をも受け容れることができる。

⑦ 学級づくりの道すじを明確にする。

1学期・・・仲間意識を育てる時間（4月～5月）
・仲間づくりの時間（6月～7月）
2学期・・・学級，学年のまとまりを高める時期（9月～10月）
・一人ひとりの学級内の存在を確立する時期（11月～12月）
3学期・・・集団の活力や創造力を発揮して魅力ある集団を確立する時期（1月～）

(3) 自治的，実践的態度を育てる要因

① 選択の自由を与える（自己決定の場）

言われたことを言われた通りに行動すれば安心，小さなことでも自分の考えで決めることができない子がいる。他律的で受け身的な生活の積み重ねから，無気力や無責任な行動が生まれやすい，そこには，生き生きとした生活態度は生まれてこない，「その時」「その場」でどのような行動が適切であるか，自分で判断して実行できる能力を児童生徒の中に育てる。判断する力と実行する意欲を育てるためには，児童生徒に「選択の自由」の場を与え，「自己決定」を促すことが大切である。

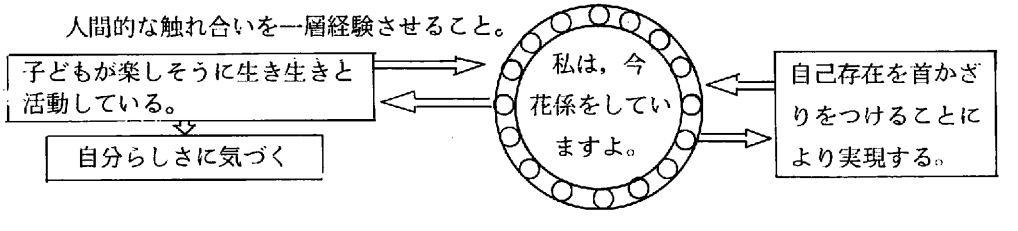
② 自己存在感をもたせる。（一人ひとりを大切に）

個や班の願いや承認の場を学級活動の中に位置づける視点を大切にし学級活動の中に一人ひとりが主人公であるという充実感をもたせる。「自己存在感」を学校のあらゆる活動の場で児童生徒が経験することができるように配慮する。

③ 共感的触れ合いを大切にする。

権力－支配－服従ではなく，人間－人間＝共感のように共通の目標に向かって「共に努力する人」，「指導する人」と「指導される人」から「人」と「人」との関係になるようにする。

学年，学級の枠や固定した人間関係の枠を越え児童生徒相互及び教師と児童生徒との人間的な触れ合いを一層経験させること。



子どもの役割行動は，あらゆる活動をだれが行っても同じというものではない，その役割を担う子どもが行うから意味がある。その子の心と思考を通して行うからその生き生きする活動によって自分らしさが学級内での地位となる。活動することにより，相手のよさに気づき，それを認めると自分自身も気もちよくうれしくなるものである。

学級の実態，子どもの発達によって異なってくるが，担任教師が一人ひとりの役割行動を認めたり，自分たちの学級のよいところはどこだろうかと問いかけたりすることにの必要性を教師自身が気づくセンスをもって子どもに接することが前提として重要である。

子どもの活動に担任教師が言葉がけや視点などの〝シグナル〟を何も発しない時，子どもの活動は放任されたものになってしまうし，子どもと実践的活動はなくなる。

子どもと一緒に活動する教師が子どもの姿をみて活動の意義を読みとることができたとき，集団活動における自治的，実践的態度が育つのではないかと思われる。

Ⅳ　係活動を活発にするための指導と工夫

1. 組織と構成

子どもたちは，自分たちの生活を豊かにし，明るく向上させるために身の回りにどのような問題があり，どのように解決していけばよいかについて積極的に取り組み，自分のことは自分でするという自主的で自律的な生活態度を身につけていくようにする。そして，係活動が，「学級生活をより楽しく豊かにしていくものであること」に気づかせ，それを自覚させることが大切である。

(1) 組織・・・好きな係に所属させる。

話し合いの議題として係の問題を取り上げ，係の活動内容を検討させ，係の整理統合を図った上で全員を希望の係に所属させる。

(2) 活動内容・常に改善，常に工夫を加える。

過去の経験だけでなく全校の各教室を見て回ったり，話を聞いて回ったりさせまた，他校の例を話して活動内容を工夫させる。子どもの創意工夫は，よいモデルを身につけるところから始まる。

(3) 活動計画・活動内容，分担を細かく計画する。

係ごとにどんな活動をするか話し合わせ発想を生かして内容を決める。継続できる内容を考えさせ仕事の分担をはっきりさせておく，また，係への要望や意見を取り入れて計画を立てさせる。

活動計画は，学期，月，週の三種類をつくっておくと効果的である。

(4) 実践・・・自分の仕事をつかませる，活動の工夫，アイデァに満ちた活動，紹介に努める。

① 活動内容　「何のため」，「だれが」，「何を」，「どのように」，役割分担を明確にして予定を立てたら計画に従った活動を行う，活動したらその日のうちに活動の記録をつけ簡単に反省とできばえを記させる。教師は一日の活動の様子を見て一言励ましの言葉をかけ，シグナルを示すと次への活動に自信と意欲をもつ

ようになる。

各係ごとにどんなことをしているか発表し合い（朝の会，帰りの会など），活動の意欲向上を図ることともに問題点に気づかせるようにする。

みんなの希望を生かすために，各係ポストを作らせたり，係だより（ポスター）で活動，P，Rさせたり，シンボルマークを作らせたりして絶えず活動に変化をもたせるように助言していく。

(5) 係活動の評価・・活動に満足感を抱かせる。　係内に受容的な空気をつくる。

教師は，係活動の指導記録用紙を準備して毎日少しずつ係活動の実践の記録を積み上げて一人ひとりの成長ぶりを把握する。個と集団の成長を的確にとらえて正しく評価し励ましていくことが大切である。

係活動を計画的，積極的にすすめていくためには，日程と役割分担をしっかりさせていくことである。日程と役割について教師のきめ細かな助言が必要であるとともに，学級集団の実態や係活動の実態をよく見つめ　急がず，実態に応じて，適切な条件，場所，機会を提示してやることが，教師の姿勢として最も大事なことだと言われている。

2. 係活動の種類

係の種類は，とくに定まったものはなく，各学級によって，さまざまな名称や活動内容のもとに行われている。

低学年・・・先生の仕事を手伝ってみたい。
　　おもしろそうだからやってみたい。

中学年・・・友だちに認められたい。
　　自分の仕事が役に立っているという意識になっている。

高学年・・・自分たちの生活を維持し　向上させるために仕事をやるようになる。

係の種類は，発達段階や学級の実態に応じて，具体的，単一的なものから，しだいに抽象的なものへと変化していけるように指導することが大切であると言える。

係は，学級の必要から生まれるものであるので，それぞれの学級でよく討議し，了解されたものであれば，その学級独自のユニークな係を置くことも，意欲的な係活動を展開させるためには重要なポイントになる。

3. 係活動を継続させる工夫

(1) 継続する工夫

子どもたちが，その学級で自主的，自治的にすごすために係活動は不可欠なものである。しかしながら，学年，学期初めなど自分の仕事の決定間のない頃は，勢い込んで取り組むものの除々にしりすぼりになっていくことが多い。

そこで　①，初め，②，継続中，③，終末の期間の節目でいかに資料を効果的に活用していくか考える。提案資料をもとに係の組織が形成され実践活動が展開されていくようにする。

各係の活動の実態を目に見える形で学級全体で「いかに知らせるとよいか」工夫する。

目に見える・・・・　　よくわかる。 わたしたちの係はよくがんばっています。 今，困っています。

⇒ 打ち出し会える場を作っておく。

① 学級から生まれる係であったか。

よくどこかの学級にあったからといって取り入れる時があるが，児童の側から出たものでなければ長続きしない。

② 創意工夫の生かせる係であるか。

創意工夫の余地のない決まりきった仕事や点検活動は，マンネリ化に流れ創意工夫の係と比べて活動意欲や喜びが少ない。

③ 納得して係へ所属すること。

ただ単に「じゃんけん」，「くじ」で人数の調整を行なってないか，納得のいくまで話し合うことが大切なことである。

④ リーダーを決めること。

常時活動を活発にし，継続していくためには，「仕事をしょう」と，声をかけたり，係の活動を進行したり，まとめたりする人が必要である。輪番でリーダーを決めその役をリーダーが受け持つようにどの子も一度はリーダーとなってみることである。人をまとめたりすることの体験をすることは，相手の立場を理解するのにとてもいい機会である。

⑤ 活動計画を立てること。

⑥ 活動する場があること。

⑦ 自由に使える用具があること。

⑧ 活動する時間があること。

⑨ 活動の様子を学級に知らせること。

〔教師は，今，どんな係がどのように活動しているか，常に把握しておく必要がある。〕

⑩ 学級会の議題に提案し活動をひろげること。

⑪ 活動記録を残すこと。

⑫ 助言は控え，あたたかく見守る。

〔教師からの干渉がましい働きかけが多くなると，子どもたちは，挫折感や失敗感をもつと共に自主的な活動に対して，自信をなくし意欲を失うことにもなる。〕

係の活動は，単なる学級の仕事分担ではない，学級の一つ家族としての生命体をどのように創り出し,いかに発展させていくかの大きな鍵となるものである。

学級や班を構成している一人ひとりになんだかの役割と責任を分担させることによって，個々の可態性を引き出す機会を与える，どの子も「自分はまかされている」，「僕もみんなの役になっているのだ」と自信につながり一人ひとりの存在を大切にする。

活動を継続させるには，機会をとられて活動の様子をたずねたり，活動が計画通りすすんでいるか，困っていることはないかなどについて話し合い，必要に応じて助言し，励ましの言葉をかける配慮が大切だと思われる。子どもは，一人ひとりにやりがいのある仕事が位置づいて一日一日の充実を支える活動があって，自分たちの希望や意見が活動に反省されたときに喜びや楽しさを感じるし，今後も楽しく魅力ある学級活動をめざしていくものと思われる。

(2) 係活動を活性化のポイント

① 仕事の内容を具体的に示そう。　② 怒る前にやり方をていねいに教えよう。

③ 活動の時間を保障しょう。　④ 教師のやる気が子どものやる気を引き出す。

⑤ グループのごたごたを指導しょう。

（ごたごたをさせるのではなく，のり越えさせる姿勢を教師が持とう）

⑥ 週に一回ぐらいは，活動のまとめをし，みんなで評価する機会をもとう。

(3) 指導と工夫のポイント

① 子どもたちの生活の中で

必要が起きたとき，つくっていく係，

必要感を感じさせる指導。

② 子どもたちにとって

自分が生かせる係

みんなにとって自分が必要だ。

③ 子どもたちの手で

企画，運営ができる係

当番活動と係活動のねらいの違い

④ 子どもたちの考えで

創り出すおもしろさのある係

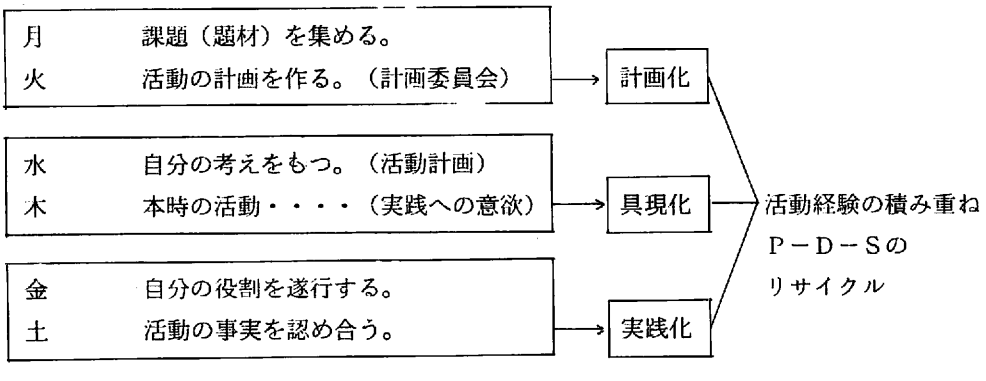
創意工夫のある活動

4. 係活動過程の確立の工夫

子どもたちがどんな活動結果を残したかよりも，そこに至るまでにどんな過程を踏み何をそこで学んでいるかが特別活動では重要である。

学級活動は，週に1時間設定される活動である。その時間だけで計画から実践まで位置づけねらいを達成することは困難である。

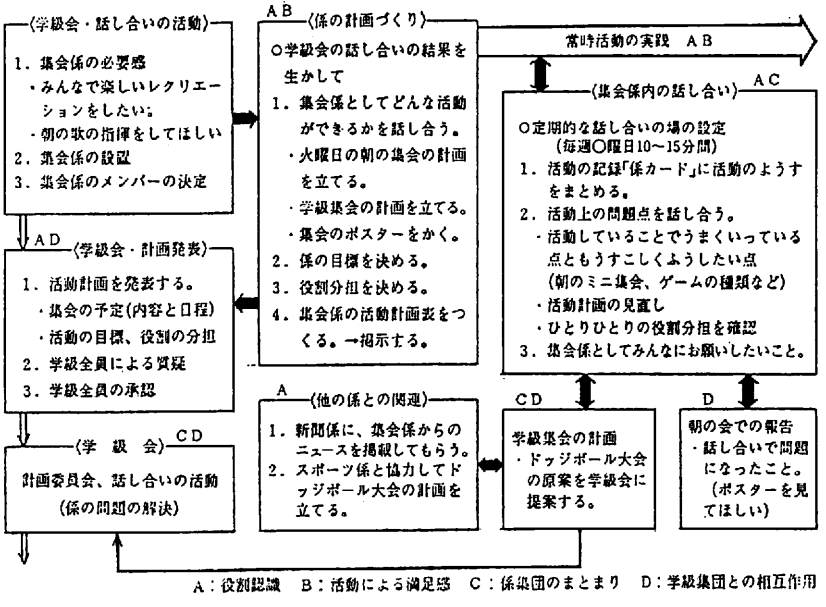
学級生活のリズムを大切にしながら週の活動週程の確立するくふうする。



5. 話し合い活動

(1) 学級集会を立案する過程

子どもの集団活動が進行していく過程には，話し合い活動があり，個々の役割行動がありみんなでつくりあげる集会もある，さまざまな活動を体験しながら子どもたちは，集団の力で成しとげる喜び（生産性）や友人との温かな人間的接融（凝集性）を学び得ていく指導する教師が子どもの活動を予測し，活動場面ごとの関連を構造的に見通しをもって工夫する。



子ども一人ひとりに対して，活動への参加意欲を高めたり活発な活動を促したりする手だての一つとして活動の記録を活用する方法がある。

係の問題を処理したり，係からの提案を議題にする話合いも学級集会を立案する過程での基本的には話し合い活動に含まれる。

学級内の個々の集団の活動と学級全体との活動との調和を図って学級集団としてのまとまった活動に心がけるようにする。そのことが学級の目標を共有し合い，その目標に向かって協同して活動することの必要性を体験を通して学ぶことになる。

話し合い活動の経験を積み重ねることにより児童の「変えたい」という声を生かして学級会の活動計画を作成し実施計画の内容を検討することにより集団活動が望ましい方向に向かっているかどうかとらえ，資料の一つとする。同様に学級会の記録，係活動の活動計画，議題の一覧表など，児童による記録に着目し活動の様子を検討してみることも大切である。

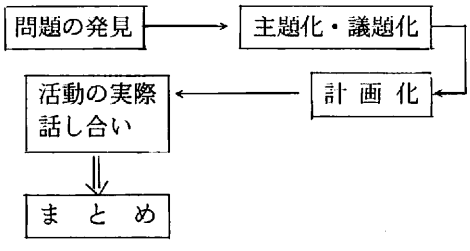
(2) 話し合い活動の実施計画の立て方

学年の進行と共に教師の指導を控え目に児童の主体性を多く発揮できるように計画的に指導する活動の実施計画案について学級活動の時間にクラスの全児童を対象に考え方や立案手順をカードに示しモデル的に指導し訓練する。

クラス全員でトレーニングすることにより学級活動に対する意識が高まり全員がリーダーであるという自覚が生じ，意欲的日常生活が展開される。

各係の仕事（立案カード）

1. い　つ
2. だれが
3. 何　を
4. どんな条件で
5. どのようにして
6. どんな手順で
7. 結果の反省



話し合い活動実施（計画立案カード）

1. い　つ
2. どんな議題
3. 議題を出したわけ
4. 議題で大切なところ
5. 話し合いの手順
   ① はじめのことば
   ② 係の紹介
   ③ 議題について
   ④ 議題を出したわけ
   ⑤ 質　問
6. 話合い
   ㋐いつ　㋑だれが　㋒どこで
   ㋓どんなことを　㋔なぜ
   ㋕どうするのか　㋖結果について
7. 係の分担
8. 話し合いのためのほしい資料

① 話し合い活動の手法

ア．開会　イ．議題を確認する　ウ．提案　エ．質問　オ．話し合いの進め方を決める
カ．問題について話し合う　キ．意見をまとめる　ク．まとまったものを決める
ケ．採決　コ．記録

② 指導と工夫

ア．学期毎の指導観を生徒の実態に即してわかりやすく見通しを持たせるように話す。

イ．議長団の養成事前に計画をおいてしっかりと流れをつかませる。

(イ) 特に留意するには，

- 多くの人に発言させる工夫をする。
- 話し合う形態も工夫する。
- 特に意見が対立した場合，グループでの話し合い等を取り入れながら結論を急がないで深めさせる。
- 少数意見も取り上げ成員に広める工夫をする。

ウ．話し合い当日の動機づけに工夫する。（グラフ，表など）

(3) 係活動過程を育てるための留意点

① 子どもの実態を見きわめ，その活動の事実に即した援助を行う，時間設定上の問題点もあるが，子どもの意志と欲求に応じるように活動過程を考えたい，そのために子どもといっしょに活動しその活動を認め，励まし，次の活動を予測することが大切である。

② 年間指導計画の活用を図り子どもの活動計画を援助する，子どもにとってはその場限りの活動計画を作成することが精いっぱいであろう。その題材の目的や指導の方針に合わせて，年間指導計画を子どもの活動計画の中にも具現化していくこともたいせつである。

③ 子どもたち自身が成功感を味わった活動過程の例をモデル化する。具体的には，問題発見の場面から，計画づくり，話し合って決める。役割を分担し合う。活動の実際という過程を子どもたちに作成する。これを提示し自分たちの体験としてモデル化するとよいであろう。

6. 子どもの活動を活発にするための環境

(1) 子どもを生かす環境づくり

「人は環境によってつくられる」といわれている。児童が毎日学習し生活する教室や学校が，乱雑であってはよりよい人格の発達をめざすことは困難である。児童が創意工夫を働かせて，自ら教室や学校の環境の整備・美化を心がけるよう指導する。

環境は，人的環境・物的環境の両面から考えてみると

人的環境……教師・友達・保護者・地域の人々の有形無形の働きかけをいい，影響は大きい。好意に満ちあふれ，子どもたちを心身ともに安全にさせ，励ましや支持，援助があってその成長を促すような人的環境は欠かせないものである。

子どもの活動を生かす人的環境は，学校内における人間関係だけではない。家庭での理解と励まし，地域の人々の子どもたちひとりひとりに対する温かい支援が学校での活動をより助長させることになるのである。

物的環境……教育における物的環境の果たす役割はきわめて大きい。環境づくりをするに当たっては，子どもひとりひとりの心にくいこむ，いわば，生きて働く環境づくりを考えることがたいせつである。

路傍の石，雑草は何も語りかけてくれない。しかし，それらから何かを得ようとする心の働きかけこそ大事である。環境の働きかけに呼応する子どもたちひとりひとりの経験が豊かであることも重要な条件である。

環境がありそれに呼応した営みがありて，心にくいこんでいくものになるようにまた，子どもの心を揺り動かすような環境にしたい。

(2) 環境づくりで大事にしたいこと

① 人間的温かさのある環境

教室は単なる知識や技能を伝援する場ではない。生活の場であり生きる力や生きるための心構えや諸能力，生きる喜びを学びとる場所である。又，学校での生活の処点であり城なのである。このように，子どもたちにとって教室は生きる喜びの味わえるような人間的温かさのあふれた場所にすることが必要である。子どもがホッとして安心感や安定感を覚えて心和むことができれば次なる成長への意欲づけられていくだろう。自分の作品もよく掲示されて自己実現や承認の気持ちを満足させてくれたり一人ひとりに呼びかけるような環境であったり，自分がその環境に参加して自己が生かされているような環境こそが大切であり，そのような環境の設定こそ教師の責任であり子どもと共に考え活動する場である。

② 求めるきっかけのつかめる環境

子どもたちが自主的・主体的に活動する場の設定とともにその子どもたちが求めるきっかけを得るようなものにしなければならない。活動する用具，場所，何をどうするとすぐ

実践しやすいように資料を求めさせたり，一人ひとりの学習の場を確保してやったり，自分の場という感覚から求めて活動していくという気持ちを強くさせることが大事である。

(3) 係活動を活発するための条件整備

教室環境は，児童にとって与えられたものではなく児童が進んで働きかけるものであるが，係活動を活発にするには条件整備が必要であり，児童たちの意欲を持続させ進んで活動するためには教室による環境づくりや場の設定が必要となる。

① 計画性を持たせること

与えられたスペースを無計画に使うのではなく，学級会や係，グループで話し合って計画的に使うこと。

② 一人ひとりが生きていること

一部の係や児童が使うのではなく，一人ひとりが主体的に参加し学級集団の一員として参加している自覚をもてるようにする。

③ 責任をもつこと。

話し合いで決められたスペースに責任をもち，学級生活の向上をめざして創意工夫すること。

④ 仲よく協力的であること

作業過程を大切にし友だちと協力し合って作り上げたという自覚がでるものにする。

⑤ 変化があること

掲示……設置の期間を決め，常に子どもらしい新しいアイディアが生み出されること。

掲示……展示，設置期間は2週間ぐらいがよい。

⑥ 条件整備のポイント

ア．活動の場の設定　イ．活動に必要な用具の準備　ウ．係活動の組織

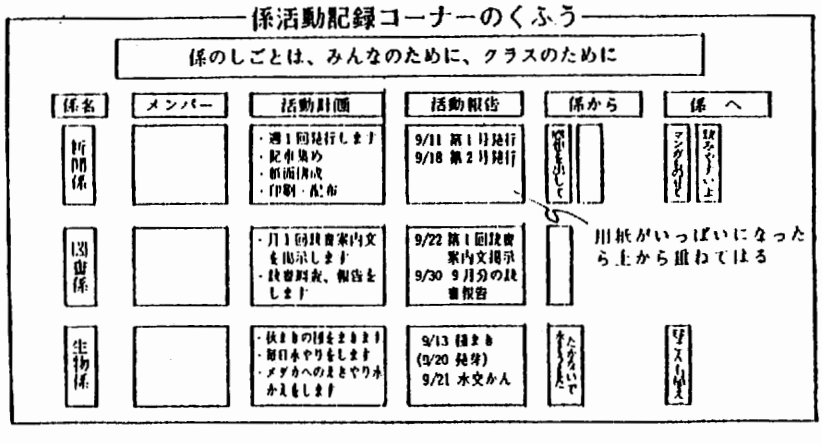
エ．活動の場面と時間への配慮設定　オ．活動の円滑化と成就感を期しての資料事例の提供

カ．教室環境設営（係コーナーや掲示場所等の設定の工夫）

キ．係ポストの設置　ク．係活動の評価

以上のような条件整備に基づいて更に配慮事項を掲げ，教師の姿勢とその熱意によって円滑な児童の係活動が展開できるようにする。

資料



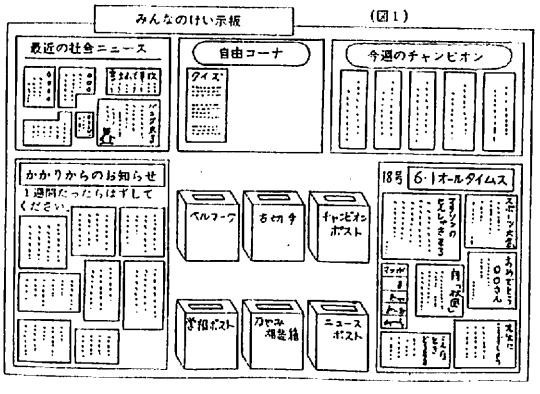
(3) 活動しやすい学級会コーナーを設ける

教室の一隅を、児童が自由に使える場所として学級会コーナーを設ける。

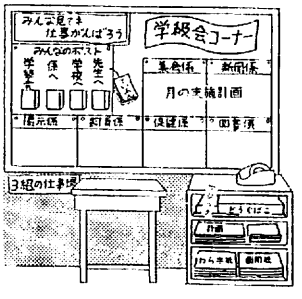
・児童机とカラーボックス（市販）
・道具箱（のり・はさみ・画びょう・ホッチキスなど）、マジック、画用紙、方眼紙、わら半紙、学級会の話し合い、係・集会の実施計画用紙、学級会の立て札、コピー原稿用紙など
・背面掲示板
係の実施計画、みんなのポスト（最期集会用）など
・背面黒板
・学級会からのお知らせ、係からのお知らせなど

○児童が参加する教室環境の工夫(1)（高学年）

（図1）



○教室内に学級会コーナーを



※　このコーナーは、係の計画表を掲示して、いつも係の仕事に目を向けさせたり、いつでもすぐ活用できるように、道具・材料をそろえておく。
また、「使い方のルール」を決めて掲示しておくとよい。

学級活動コーナーのくふう

学級活動コーナー

活動の順序

月…題材案の整理
火…題材案の承認
水…活動計画の作成
話合いの準備
木…計画カードの配布
金…学級活動
土…計画カードの整理
及び提出

次回の活動内容

活動日　10月13日(金)5校時

題材　クラス担当集会の計画を立てよう

理由　11月の集会は六の○らしさがでるような集会にしたいので、みんなで集会の内容を考えたい

役割分担　担当　六班

司会　○○○
記録　○○○
副司会　○○○
黒板記録　○○○

くぎを打ちボール紙で作った名札をかける

今までの記録

決まったことなどを書きこんだ計画カードをそのまま掲示する。
(感想や反省も書きこんでおく)

係活動記録コーナーのくふう

係のしごとは、みんなのために、クラスのために

係名	メンバー	活動計画	活動報告	係から	係へ
新聞係		・週1回発行します ・記事集め ・紙面構成 ・印刷・配布	9/11 第1号発行 9/18 第2号発行	感想を出して	マンガをのせて 読みやすいよう
図書係		・月1回読書案内文を掲示します ・読書調査、報告をします	9/22 第1回読書案内文掲示 9/30 9月分の読書報告		
生物係		・秋まきの種をまきます ・毎日水やりをします ・メダカへのえさやり水かえをします	9/13 種まき (9/20 発芽) 9/21 水交かん	たかないで水をとりかえて	虫こんも加え

川紙がいっぱいになったら上から重ねてはる

(4) 係活動を活発にするための評価の方法

活動計画・活動経過・活動の成果・反省などを各係ごとに記録しておくことによって，活動の歩みが学級に残されよい財産となる。「ああ，よくやったなあ」とか，「もう少しできたなあ」という満足感や期待感もここから生まれてくるものである。同時につぎの活動を計画をする際，今までの経験や反省が土台となってその上に工夫が積み上げられていく，創意工夫の基盤としてこの記録が活用されるのである。

係活動は自分達で工夫して立案した実施計画と真剣な活動，そして，自分達の歩みを振り返る反省の活動から成り立っている。

① 児童自身が行なう評価

〈評価の観点〉

進んで自分たちでできたか

- 目標をもちそれにそったか。
- 計画をたててできたか。
- 力を合わせて活動できたか。
- 反省が生かせたか。
- 楽しく力いっぱいできたか。
- くふうしてできたか。
- 責任がはたせたか。

〈評価の方法〉

- 自己評価
- 相互評価
- グループ評価
- 全体評価

→ 対話／話し合い／記述

② 教師が行なう評価

〈評価の観点〉

- 自費の自主性は伸びたか。

  自発性・自治性・社会性・個性・意欲・問題意識・創造性

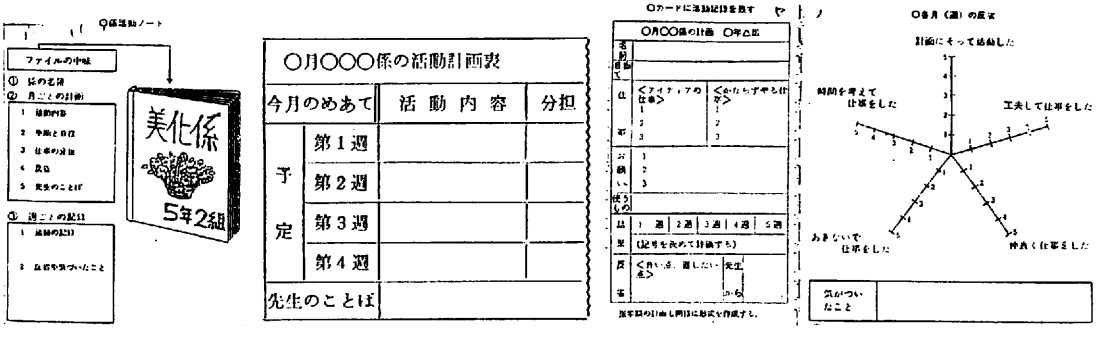
- 児童の変容をどうとらえどう生かすか。

  個人・グループ・学級集団がどう変容したか。その変容は建設的で進歩の跡がみられるかどうか。それぞれの進歩発展を阻害している要因は何か。

- 教師の指導性は，児童の自主性が伸びていく方向へ，適切になされたか。

  指導計画の適否，個人・グループ・学級全体に対する意欲のもたせかた。個人差に応じた援助や刺激の与えかた。人間関係に対する配慮，活動しやすい時間や場の設定のありかた。

資料



V　実践，展開例

1. アンケートの分析と考察

係活動を活性化し確かなものにするには，学年の発達段階をおさえて，「係活動学年別指導計画」を作成する必要があると思った。そこで，児童の実態をつかむためアンケートを実施した。

(1) 係活動に関する調査結果と考察

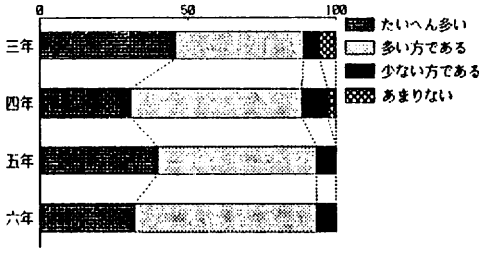
① 調査の目的……係活動についての傾向をとらえ，指導の反省と改善に役立てる。

② 調査の期日……6月上旬

③ 調査の対象……前田小　3年生以上　各学年　2クラス

④ 参考資料……相模原市教育研究所　研究集録　49集

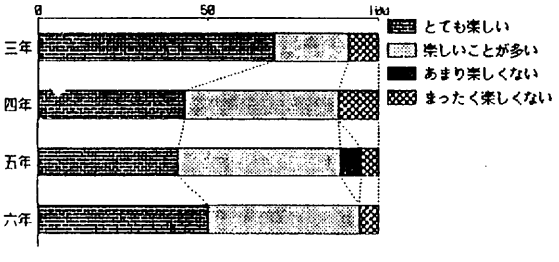
1. あなたは，クラスの中の友達が多い方ですか。



学校生活において，90%の子どもたちが集団生活を楽しくすごしている。中学年，高学年にすすむにつれ学級，学年の輪が広がり，他学級の友だちとも幅広く仲よくすごしているようである。学級，学年が明るい雰囲気のように感じられる。

これは，学校がオープン教室のつくり方でオープンスペースを生かした学習方法を取り入れているのでだんだんと級友が増えていくものだと思われる。

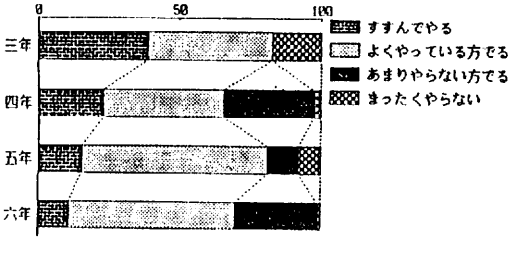
2. あなたは，クラスの生活は楽しいですか。



学級生活は，ほとんどの子が満足しているようである。三年生では，69.5%の子がとても楽しいと答えているが，四年，五年では，44.3%，43.5%と減ってきている。

子どもたちのギャングエッジの時期で心理面の変化と教科の難かしさとの接点の時期だと思われる。集団づくりに少々変化があるのではないかと思う。

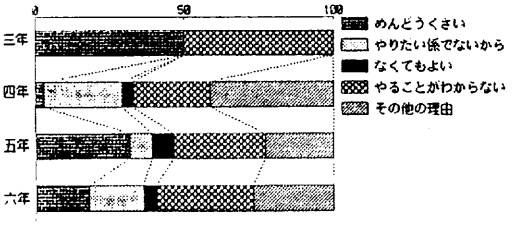
3. あなたは，自分の係の仕事をよくやりますか。



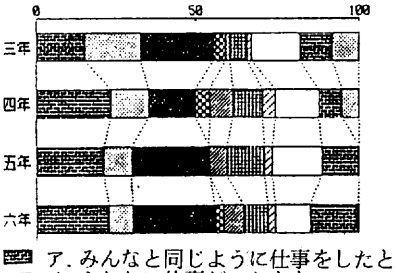
係の仕事をすすんでやることが，三年生では39.1%になっているが進級するにつれだんだんとへっている。四年生になると，すすんでやる子が極端に少なくなっている。これは，中学年に見られるなまける自分とがんばる自分との戦いの現れと見える

中学年を境目にして，高学年になるにつれ，すすんで係活動をする意欲がだんだんと薄れていく傾向にある　又，なんとなく雰囲気も感じられる。中学年の時期に自発的，実践的活動ができるように，教師の指導工夫で意欲をもたせる必要があるのではないかと思う。なまけるのではなく，ただやっているのではなく，子どもたち自身で活動できるような雰囲気づくりも必要であると思われる。

4. 3でウ・エと答えた人だけ答えて下さい。



5. あなたは，どんなときに係の仕事をがんばりたいと思いますか。



ア. みんなと同じように仕事をしたとき
イ. やりたい仕事だったとき
ウ. 係の仕事をしないとクラスが困る時
エ. 先生にほめられたとき
オ. 友だちにほめられたり認められたりしたとき
カ. 先生に仕事をがんばるように言われたとき
キ. 友だちに仕事をがんばるように言われた時
ク. 助け合う友だちがいたとき
ケ. 仕事のやり方や工夫がわかったとき
コ. その他

中学年の意欲が出る時期と，係の仕事でやることがよくわからないと答えた人が50%もいる。やはり，わからない子に援助し，指導工夫が必要であることを痛感する。

四年生では，やりたい仕事でないから，やることがよくわからないという係活動はどう活動すればよいのか，子どもたちも迷ったり悩んだりしている時期だと考えられる。

その他の理由が40.7%と多いのは，忘れていた。やる仕事がない，遊んでしまったとある。時間設定の必要があると思われる。

高学年では，なまけぐせがつきやすいので，これまでの係活動の経験に基づいており，創意工夫を必要とする時期に，係の仕事のやり方が身に付いていないということは，低学年指導過程をふり返り，年間計画が必要と思われる。

係活動をどんな時にがんばりたいかというと，みんなと同じように仕事をしたときの活動は三年生の15.3%から六年生の23%とだんだん意識が高まっていく，やはりクラスや学年が同じように活動の場を設定し，同じ時間内で活動できたらがんばりたいという意欲が出てくるものだと思う。又，係の仕事をしないとクラスが困るときに，がんばりたいと思うことは，高学年では相手に迷惑をかけたらいけないという社会性の発達からでてくるのだろうか。それとも，自主的・実践的活動の経験で与えられた活動だけが係活動としてすごしてきたのだろうかと子どもたちの活動の意欲の弱さが感じられる。

子どもたちは，教師ががんばれという言葉かけよりも，助け合う級友があり，友だちと同じように活動でき，その上に仕事のやり方や工夫ができたとき，意欲的に活動する子が育つだろうと思われる。

これらのアンケートをもとに学年の発達段階をおさえて，低学年からの活動の積みあげを根気よく続けていけるように学年別指導計画を作成する必要があると感じ，今後の課題とした。

2. 実践・展開例

ここでは，五年生の係活動において「係活動を見直そう」という議題を実践化するため，学級活動でどのように展開すればよいのか，ねらいをおさえて考えてみた。

五学年の係活動のねらい

ねらい

- 自分たちで係を組織し計画に基づいて学級全体の立場に立って創意を生かした活動である。
- 自分たちの係活動を反省しながら内容が深められる。
- 係り同志，横の連絡をとりながら協力して学級の仕事から分担処理できる。
- リーダーとなって一人ひとりに応じた仕事の分担をまとめることができる。

指導内容

- 男女の区別なく，個人の特性を生かして係を決める。
- 他の活動との関連，仕事の整理，協力の依頼など話し合いながら活動する。
- 時間や場を効果的に活用する。
- 係の活動の記録をもとに係を改善していく。

留意点

- 係のいっそうの整理統合を図る。
- 個人の希望を出させ，その特性を生かせるような係を分担させる。
- 学級全体の時間的，内容的に無理のない計画を立てる。
- 係活動に必要な資料を準備し学級全員を取り入れて仕事の改善を図る。

議　題

(1) 活動名　　学級の係を決め直そう

設定理由　　単に決められた仕事をやる活動にとどまることなく，学級を動かし学級のまとまりや，向上を目ざす係活動としてこれまでの経験や反省を踏まえて新しい組織づくりを目指す。

ねらい　　一学期の反省を生かして，学級をより楽しく豊かにするためにお互いに創意工夫して活発に活発できる係の組織をつくるようにする。

展開の順序

1　一学期の各係の問題点を出し合い整理する。

① 一学期を振り返って……資料をもとに（資料1．2）

② 二学期の係のために……まとめる表をもとに（資料3）

2　「反省資料」をもとに二学期の係を決め直す……話し合い活動

① どんな係が必要か。（係の統廃）

② 活動内容はこれでよいか。

③ 人数や所属を決める。

3　二学期の活動計画を立てる。（係ごとの相談）

① 活動のねらい

② 活動内容の方法

③ 役割分担と活動の工夫

∴ 2の話し合い活動は，1単位時間を充て特に係の統廃を活動内容については十分に検討する。

〈話し合い活動〉

月日	議題	提案者	司会	副司会	提案理由	記録	黒板	ノート	めあて	話し合う順序	一、はじめのことば → ← 二、役割の紹介 → ← 三、議題のたしかめ 四、提案理由のたしかめ → 5分 ← 五、めあて、たしかめ 話し合うこと ①どんな係が必要か ②活動内容はこれでよいか ③人数や所属を決める → ( ) 分 ← 六、司会者グループから 七、決定したことの発表（ノート・書記） → 7分 ← 八、先生から 九、終わりのことば	自分の考え	決定した事	自分のする事	話し合いを終えて	◦自分の考えをもって参加したか。 ◦友だちの意見を認め挙手や拍子ができたか。 ◦今日の話し合いは楽しかったか。
○年○組 ○回学級活動○校時	学級の係を決め直そう														

Ⅵ　研究の成果と反省

1. 今後のまとめ

子どもたちは，学校生活に生きがいを感じ自分の欲求が満たされ，自分の行動が学級の仲間に認められたいという願いをもって登校してくるものだと思われる。教師は，その意欲をどのように育てたらよいのか，常に自己の指導力に問いかけてきた。

今回の研究テーマ――「意欲的に活動する子どもを育てるための工夫」――学級における係活動を通して――とし，研究をすすめてきた。

特別活動の指導の原理は，集団活動を通して，どのように自主的・実践的な活動ができるようにするかは，教師の創意による創造的活動によって指導するものだといわれている。

可能性を秘めた子どもたちは，集団活動において，自由に放任したり，場あたり的な指導によっては自主的な活動は育たない。教師は，その活動の内容を精選し，計画・実践・反省（評価）していく中で子どもたちは，責任感・存在感・連帯感という社会性が身につき，発達段階に応じて育っていくものだと思われる。そして，教師は，子どもの活動意欲を育てるためには指導の原理と基本的な考えをしっかりと踏まえ，子どもの活動に対し，必要に応じて適切な助言や，励ましの言葉をかけてやり，活動に自信と意欲をもたすことが大切である。

係活動は，子どもたち自身の必要性から，生まれてくるものであり，自分たちで活動目標を設定し，計画をたて実践に向けて組織化していく。組織を通して，自分たちの活動を評価することによって自発的な活動がスムーズに行なわれるであろう。その場合，教師は，学級経営において，子どもたちが活動しやすいように条件整備をしてやることが，活動意欲を育てる工夫へとつながっていくものと思う。

2. 今後の課題として

(1) 学級活動における話し合い活動を通して，子どものありのままのすがたをいかにして，受けとめることができるかについて，児童理解を深めていきたい。

(2) 発達段階をおさえての学年別指導計画を作成し，学級活動における話し合い活動において子どもの自発的，自治的な実践活動を具体化するため，学級経営についての研究を深めたい。

おわりに

限られた期間でどれだけ自己を見つめ直し挑戦していけるか，大きな課題であったが，今までの自己のつまづきに気づき，いろいろな図書，文献に出会うことができた。まるで別世界にでも引き込まれていくような思いで必死にテーマに突進したが，しかし，まだまだ未知の世界で課題とすべきこともたくさんでてきた。希望に燃えた四カ月間であったが，未知なる世界の発見に気づかせてくださった，諸見里稔指導主事・池田博晄指導主事・知花清校長，いつもやさしく励ましの言葉をかけ，勇気と自信をもたせてくださった，福山朝秀所長・大城昌周主査，島袋友子司書，いつも笑顔で協力体制ばっちりの研究所員の皆さん，浦添市教育委員会の西里良輝指導課長の教育に対する意欲あふれる情熱を感じることは，研修生活の大きな成果であった。そして，ここで得た成果を学校現場で生かし，これからの教育活動の糧にしていきたいと思います。いろいろと御指導，援助をいただいた諸先生方に深く感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

〈主な参考文献〉

- 小学校指導書　　特別活動編　　文部省
- 現代小学校学級担任事典第17巻
  自主性を育てる特別活動の時間　　ぎょうせい
- 特別活動読本　　教育開発研究所
- 特別活動の解説と展開　　教育開発研究所
- 特別活動研究　　明治図書
- 特別活動実践事典　　小学館
- 学習指導案作成の手引　　第一法規
- 図説　小学校指導技術基礎講座
  話し合い
  児童理解と指導
  学習ノート
  　　ぎょうせい
- 自ら学ぶ力を育てるために　　帯広教育研究所
  〈自己教育力の育成〉
  ―学ぶ力を育てる特別活動―
- 小学校教育実践講座
  人間形成と特別活動　　ぎょうせい
- 小学校学級担任活動双書
  楽しい学校生活をつくる特別活動　　文教　書院
- 学級係活動のくふう　　東洋館出版社
- 係活動の指導　　明治図書
- 楽しい教室環境づくり　　明治図書
- 小学校
  学級担任必携改訂版　　文教書院
- 研究紀要
  特別活動の充実を求めて　　大津市教育研究所